

産官学で起業に追い風

経営ノウハウ伝授の輪

京都の産官学が新興企業や中小企業を支援する枠組みを広げている。京都府はアジア最大級のスタートアップ向けイベントを誘致し、京都大学は起業支援の新たな枠組みを設けた。京都商工会議所は中小企業に新事業を促すプログラムを続ける。支援を受けた企業の上場も相次ぎ、京都のエコシステムが機能し始めた。

「スタートアップに必要なリソースが京都にすべてそろつ3日間になる」。京都府の西脇隆俊知事がこう話したのは6月下旬に京都市内で開いた「IVS（アイブイエス）」だ。府などが主催し、起業家や投資家

が主催し、起業家や投資家ら1万人以上が3日間に訪れたスタートアップのイベントだ。海外からの参加者も2千人に及んだ。IVSは先輩の起業家が後輩に経営ノウハウを継承したり、資金調達や商談をしたりするイベントとして全国各地で700人規模の招待制で開かれてきた。国際化や規模拡大を狙ったところ、21年から誘致を始めた京都府が開催にこぎつけた。

二条城をはじめ各地で文化理解や交流を深めるサイドイベントも開いた。京都府は「起業家らには京都の魅力や、京都市民にはスタートアップを知ってもらう機会となった」と話した。24年度もIVSの京都開催を目指し準備を進めている。

京大ではディープテック（先端技術）の研究の社会実装を目指す新たな起業支援を23年から始めた。研究者と「社長候補」の事業化プロデューサーがチームで申し込み、採択されると1年間で2千万円の支援金を得られる。三菱商事からの寄付金6億円を原資とした。

培養肉分野などで起業経験のある大野次郎氏は、京大の森本尚樹教授と組み、人工的な皮膚の作製を目指すプロジェクトを提案し採択された。大野氏は「資金は動物実験に使う。30年ごろに医療製品としたい。支援を受けられてありがた

い」などと述べていた。増養肉分野などで起業経験のある大野次郎氏は、京大の森本尚樹教授と組み、人工的な皮膚の作製を目指すプロジェクトを提案し採択された。大野氏は「資金は動物実験に使う。30年ごろに医療製品としたい。支援を受けられてありがた

新興企業のみでなく、京都には伝統産業などの中小企業も多い。京商は中小の新事業開発を支援する「知恵11GP（グランプリ）」を20年度から開いている。清水寺近くの清水焼専門店の東五六（京都市）は、顧客のデザインを3次元（3D）プリンターで再現して陶磁器などを作製する事業案でチャレンジ部門の優秀賞を受賞した。売上高の8割を小売りが占めるため浅井洋平社長は「地震や天災があったら終わりだ」と危機感を持ち、事業開発に踏み出した。

受賞後は京商を通じて専門家から10回の助言を受けて「事業モデルを軌道修正できた」（浅井社長）という。現在はインバウンド（訪日外国人）の回復で小売業が好調だが、清水焼を使った壁掛けのインテリアなどを提案し法人向けなどの商談も進めている。

地域の支援を受けてきた企業の上場も相次ぐ。23年には東京証券所のプロ向け市場「東京プロマーケット（TPM）」を含めて、複数の京都企業が上場した。京都信用金庫傘下のベンチャーキャピタルから出資を受けてきた農業経営支援のマイファームは上場で規模拡大を目指す。京都市ベ

ンチャー企業目利き委員会で認定されたレーザー関連の光響も上場をテコに取引先拡大を狙う。昭和時代にオムロンや京セラを生んだ創業の都が再び存在感を増していきそうだ。

産官学で新興や中小企業を支援している

京都府

アジア最大級の新興企業イベントを誘致

京都大学

三菱商事の寄付を財源に起業支援の枠組み作成

京都商工会議所

中小企業の新規事業開発を支援

(注)写真は清水焼を壁面装飾に活用した事例

23年上場の主な京都企業	
光響	レーザー関連製品の製造と卸売り
エリツホールディングス	不動産の管理・仲介
マイファーム	体験農園の運営、農業コンサル